

平成30年度柏市都市景観賞二次審査対象一覧

No.	タイトル	写真	建物名・施設名	所在地	応募者推薦理由	一次審査コメント
A	柏の葉かけだし横丁		柏の葉かけだし横丁	若柴 184-1	柏の葉かけだし横丁は、「屋台」をモチーフとした19の小型飲食店舗とランナーズステーション機能で構成する複合型飲食施設。各店の個性豊かな店主と、周辺にお住まいの方やお勤めの方、大学関係者、この街を訪れる様々な方など、多種多様なお客様が交差する新しいコミュニティづくりの場として期待されます。景観として、コンクリートの打ち放しで無機質でありながら力強い高架の造形と、人の心が通い合う屋台の融合が面白く、来場する人の心を躍らせます。	<ul style="list-style-type: none"> 本横丁は、平成28年度柏市都市景観賞を受賞した柏の葉キャンパス駅前の屋台イベントが空間の暫定活用に発展した結果であり、その点は大変評価できる。 建物とそれを挟むようにある遊歩道の繋がりが上手く機能しているように感じる。
B	柏の葉T-SITE		柏の葉T-SITE	若柴 277-1	<p>蔦屋書店を中核とした生活提案型商業施設の柏の葉T-SITE。アウトドア用品からグルメ、そして「人文・文学」「アート」「建築」「クルマ」「料理」など豊かな心をはぐむ文化的な様々な書籍の数々。これからの日本を担っていく子どもたちに向け、テクノロジーだけでなく、情緒や楽しさ、人の心を忘れずに大切にしていってほしいという気持ちも込めて、柏の景観の一つとして推薦しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 低層建物とすることで、柏の葉アクアテラスの景観に配慮し、活かしている点が評価できる。 国道16号側が駐車場であり、混雑時には車の海となるが、2号調整池（柏の葉アクアテラス）側の景観を重視するというこの地域の考え方を体現している点は評価してよい。 周囲の植栽や建物壁面の柏の葉を模した意匠が、柏の葉アクアテラスの植栽と調和して楽しげに感じる。 アクセントの黄緑色について、周囲の緑と上手く調和している。
C	かしの未来につながる小中学校		柏の葉小学校 柏の葉中学校	十余二 348-51	<p>隣接する柏の葉小学校（平成24年4月開校）と平成30年4月に開校された柏の葉中学校は、空中通路で繋がれた小中一体型の校舎、柏市では初めてとなるプレザータイプの制服、柏の葉小学校の六年生との校舎共有など、今までに例のない環境や取り組みに注目が集まっています。これらは、学校教育目標「生きる力を育み、夢の実現に向けて、自ら考え、行動する生徒を育成する～地域とともに教育を創造し、生徒一人一人の個性と能力を伸ばす学校～」のもと、生徒・教職員が一体となって新たな学校づくりを進めており、ハードだけでなく、保護者・地域・関係機関の連携というソフト面を含め未来に残したい建築物として推薦します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> まちと融合を図る姿勢や地域と連携する取り組みなどの一連の流れを総合的に評価したい。 周囲との調和に配慮した建物の素材感、サイン計画、壁面緑化などのバランスが取れている。また、小学校と中学校を繋ぐ渡り廊下が象徴的である。

No.	タイトル	写真	建物名・施設名	所在地	応募者推薦理由	一次審査コメント
D	医療法人社団清風会 「平野医院」		医療法人社団清風会 平野医院	豊住一丁目 1-45	敷地は南柏駅からバス通りに面した住宅地にあるため、建物のシルエットは周辺住宅の街並みと調和が取れるように診療所の機能ごとに建物を分節して、それぞれのボリュームごとに切妻屋根や庇の勾配を変化させることで建物全体のボリュームを抑えた外観となっています。そして外壁に使われている千葉県産サンプスギの厚板や、庇や軒裏に使われている木板の仕上げが、通りにやさしい表情を見せます。また、前面道路は歩道が狭いので植栽帯をセットバックして、敷地内を一部歩道状にしたり、屋根付きベンチを作るなど、この医院の直接の利用者ではない人々にも配慮されており、街の景観に大きく寄与しているため、景観賞に推薦します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の意匠が良い。 ・ 敷地の一部を歩道やバス停として整備していることについて、周囲のまちなみに配慮している点が評価できる。 ・ 周辺の住宅との調和について、目立ちすぎないように配慮されている。また、利用者のことを考えたバス停の整備は評価できる。
E	患者を癒してくれる空間		新柏クリニック	新柏 1-7	2017年度グッドデザイン賞を受賞し、外部の樹木と内部の開放感が一体化した、なんと落ち着いた感じのある、患者を癒すには最も気持ち良い建物です。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の内側と外側が一体化しているような意匠に好感が持てる。また、周囲の植栽が充実することで、より豊かな景観の創造が期待できる。
F	K18 K-ICHIHACHI		K18 K-ICHIHACHI	柏一丁目 1-8	<p>K18は、柏駅周辺での大型商業施設の撤退等を受け、街なかの回遊性と居住地の向上につなげる施設整備を目的に整備した、一般財団法人柏市まちづくり公社初となる商業施設です。</p> <p>K18は、線路沿いと路地裏に立地する特徴を活かし、「柏駅前に小さなリズムのある“顔”をつくる」デザインコンセプトとしました。線路側のファサードにはアルミルーバーを多用し、鉄道の流れに沿ったリズムが生まれるようデザインし、開口部をガラス面で大きく設けることや屋上をテラス化するなど、鉄道乗客に対して建物でのアクティビティを外に見せることで、時間や状況による違った“顔”が創出されるようにしました。道路側のファサードは路地裏の雰囲気大切に、シルバーパネルによるラインと黒壁でシンプルかつ落ち着いたデザインを施しています。この建物に投げられた新しいリズムの一石が波紋となり、このエリアだけでなく、まち全体に広がることを目指しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雑然とする路地裏にシンプルな意匠の建物を造ることで、路地全体にスッキリとした明るい印象を与えている。同時に、駅のホームとのコミュニケーションを重視していることが、駅側ファサードの開口部の作り方から感じられる。駅前建築のデザインに対する考え方の一つとして評価できる。 ・ 駅側のファサードが開放的で、ホームや電車からの見え方に配慮している点が面白い。一方で路地側のファサードも楽しさを演出するような意匠で、小さい建物ながらもよく考えられている。